

Y B 1-4

経腸栄養剤投与患者における六君子湯の胃排泄機能の改善効果

小川赤十字病院 NST 薬剤部¹
小川赤十字病院 NST 検査部²
小川赤十字病院 NST 看護部³
小川赤十字病院 NST 内科⁴
小川赤十字病院 院長⁵
○渡邊 亜希子¹⁾、宮川 淳子²⁾、増淵 啓志²⁾、
宇田川 洋子³⁾、清水 聡⁴⁾、浅野 孝雄⁵⁾

【はじめに】胃排泄機能低下による嘔吐は、経腸栄養剤を投与している患者においては、誤嚥性肺炎を併発する。今回、胃排泄機能低下患者において、六君子湯の効果を検討したので報告する。【対象ならびに方法】経鼻胃管、PEG より経腸栄養剤の投与が行われている患者を対象とした。六君子湯はツムラエキス製剤7.5gを経腸栄養剤投与30分以上前に分3で注入し、2週間以上投与した。胃排泄機能は、超音波法で測定した。胃内容物を頭部30° 挙上右側臥位で前庭部または幽門部付近の決まった位置を経時的（前、直後、1時間後、2時間後）に計測し薬剤投与前および後で評価した。【結果】六君子湯は胃排泄能を有意に改善させたが、その効果は症例により異なった。【まとめ】胃排泄機能低下例においては、六君子湯は試みる価値があるものと思われた。

Y B 1-5

女性大腿骨骨折患者に有用な治療食を検討して

徳島赤十字病院
○大和 春恵、栢下 淳子、木内 和江、
浜井 和子、吉田 郁子、長江 浩朗

【はじめに】大腿骨骨折患者の栄養療法は未確定な要素が多い。我々は、骨代謝に関係のある栄養素でイソフラボンを強化した食事の影響について検討した。【対象と方法】平成17年10月～平成19年3月に入院した女性大腿骨頸部骨折患者32名。16名をControl群とし16名をExperiment群とした。C群は常食を提供し、E群はC群の食事に大豆イソフラボンを強化した献立と特定保健用食品を提供した。骨吸収マーカーは尿中ピリジノリン、尿中デオキシ【結果】尿中イソフラボン量は、介入前と介入後と比較すると、C群では、有意な差がないもののE群では有意に上昇していた。尿中ピリジノリンはC群E群ともに有意に上昇していた。またデオキシピリジノリンはC群では、有意に上昇していたが、E群では上昇傾向にあったが、有意な差はなかった。【考察】骨吸収は、臥床期間が週の単位になると、増加することが知られている。一方、大豆イソフラボンを摂取することで、骨吸収を抑制することが知られている。2種類の骨吸収マーカーを指標として、臥床期間（14日間）を比較すると、E群においても増加しており、骨吸収抑制が困難であったことが示唆された。しかし、介入前と介入後と比較したデオキシピリノリジンでは、C群は有意に上昇したもののE群では上昇傾向にあるものの有意な差が見られなかった。イソフラボンの摂取により骨折して寝たきりになっている患者の骨吸収を抑える可能性が示唆された。